

# 形態機能学 I (解剖学)

単位数 (時間数) : 2 単位 (60 時間) 必修/選択 : 必修 履修年次 : 1 年次 開講時期 : 前期

科目責任者 (職位・氏名) : 非常勤講師・遠山稿二郎

科目担当者 (職位・氏名) :

---

対応DP : 基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢  
看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽  
科目記号 : 25

## ■ 授業概要

看護の実践、特にフィジカルアセスメントの基盤となる、人体の基本構造と器官系の正常な機能に関する知見を提供するだけでなく、どのような機能によって恒常性が維持されているのか、その調節・制御機構を理解し、また日常生活にどのように影響を及ぼしているかの理解に必要な専門知識を教授する。

本分野 (解剖学) では、形態学的な観点から、細胞の構造、人体を構成する組織、器官の構造を理解するために必要な解剖学的専門知識および考え方を解説する。

## ■ 到達目標

1. 体の部位について「解剖学用語」を使って表現できる。
2. 各臓器の大きさを把握し、大まかなつくりを図示し、機能と関連づけて説明できる。
3. 各臓器の細胞組織レベルの構造を図示し、機能と関連づけて説明できる。
4. 教科書各ページの右欄に示す用語を理解し講義で示す「学習達成チェック」項目を説明できる。
5. 体表から触れることのできる臓器の名称と機能を説明できる。

## ■ 教育内容

人体の構造と機能

## ■ キーワード

細胞、組織、器官、体腔、形態、機能、発生

## ■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	解剖学総論 概論、細胞、系統、体腔、解剖学用語	【教科書】 1「解剖学とは何か」:P001～P002； 2「器官とその系統」:P003～P004； 3「細胞と組織」(A 細胞と細胞小器官):P005～P007； 4「人体の外形と方向用語」:P023～P030 講義	遠山
2	骨格系Ⅰ 総論・発生・組織	【教科書】 3「組織と細胞」(B 組織-2 支持組織):P010 ～P013； 5「骨格系」:P031～P037； 15「からだはどのように造られるか(発生学 のあらまし)」3a 体節とその発展:P386 講義	遠山
3	筋系Ⅰ 総論・発生・組織	【教科書】 3「組織と細胞」 B 3 筋組織:P014～P016； 6「筋系」筋のかたちと構造・筋のはたらき と神経支配:P083～P088； 15「からだはどのように造られるか(発生 学のあらまし)」3a 体節とその発展:P386 ・講義	遠山
4	骨格系Ⅱ 頭蓋・体幹の骨	【教科書】 5「骨格系」B あたまたの骨・C 脊柱・D 胸 郭:P041～P064 ・講義	遠山
5	筋系Ⅱ 頭部・体幹の筋【主な血管と神経】	【教科書】 6「筋系」A あたまたの筋・B くびの筋・C 胸 部の筋・D 背部の筋・E 腹部の筋:P088～ P104 ・講義	遠山
6	骨格系Ⅲ 上肢帯・上肢の骨	【教科書】5「骨格系」E 上肢の骨格:P064 ～P072 ・講義	遠山

7	<b>筋系Ⅲ</b> 上肢帯・上肢の筋【主な血管と神経】	【教科書】 6「筋系」F上肢の筋:P104～P112 ・講義	遠山
8	<b>骨格系Ⅳ</b> 下肢帯・下肢の骨	【教科書】 5「骨格系」F下肢の骨格:P072～P81 ・講義	遠山
9	<b>筋系Ⅳ</b> 下肢帯・下肢の筋【主な血管と神経】	【教科書】 6「筋系」G下肢の筋:P112～P119 ・講義	遠山
10	<b>神経系総論</b> 発生・組織・脳脊髄膜・脳室・脳脊髄液	【教科書】 3「組織と細胞」4神経組織:P017～P021；13「神経系」神経系の構成・神経細胞の新生、変性、再生:P279～P283；B脳室と脳脊髄膜:P306～P311；15「発生のあらまし」2発生の第2週と第3週:P379～P385；g神経系:P391～P39 ・講義	遠山
11	<b>末梢神経系</b> 脳神経・脊髄神経・自律神経系	【教科書】 13「神経系」B末梢神経系:P311～P340 ・講義	遠山
12	<b>中枢神経系Ⅰ</b> 大脳半球・間脳・脳幹・小脳・脊髄の構造	【教科書】 13「神経系」A中枢神経系:P283～P311 ・講義	遠山
13	<b>中枢神経系Ⅱ</b> 知覚にかかわる主な伝導路	【教科書】:13「神経系」C神経系の主な伝導路,2求心性伝導路:P343～P347；14「感覚器系」C皮膚:P367～P374 ・講義	遠山
14	<b>中枢神経系Ⅲ</b> 運動にかかわる主な伝導路	【教科書】 13「神経系」1反射路:P340～P342；3遠心性伝導路:P348～P350 ・講義	遠山
15	<b>感覚器系Ⅰ</b> 視覚器(発生・組織・構造)	【教科書】 14「感覚器系」A視覚器:P354～P361 ・講義	遠山

16	<b>感覚器系Ⅱ</b> 平衡聴覚器・皮膚（発生・組織・構造）	【教科書】 14 「感覚器系」 B 平衡聴覚器:P362～P367 ・講義	遠山
17	<b>血液・循環器系Ⅰ</b> 総論・発生・組織・血球・リンパ系組織と脾臓の構造	【教科書】 7 「脈管系」:P121～125; 15 「発生のあらし」:P384 ・講義	遠山
18	<b>血液・循環器系Ⅱ</b> 心臓	【教科書】 7 「脈管系」 A 心臓:P121～P135 ; 15 「発生のあらし」:P385 ・講義	遠山
19	<b>血液・循環器系Ⅲ</b> 全身の動脈・静脈・リンパ管	【教科書】 7 「脈管系」 A 血管系, 2 肺循環と体循環, 3 動脈系, 4 静脈系, 5 胎生時の循環系 ; B リンパ系: P136～162 ・講義	遠山
20	<b>呼吸器系Ⅰ</b> 総論・発生・組織・構造:鼻腔	【教科書】 9 「呼吸器系」:P217, A 鼻腔:P218～ 220 ; 15 「発生のあらし」 e 腸管とその派生 物:P390 ・講義	遠山
21	<b>呼吸器系Ⅱ</b> 構造:喉頭・気管・肺	【教科書】 9 「呼吸器系」 B 咽頭, C 喉頭, D 気管と気 管支, E 肺, F 胸膜と胸膜腔: P220～233 ・講義	遠山
22	<b>消化器系Ⅰ</b> 総論・発生・組織・構造:口腔・食道	【教科書】 8 「消化器系」 P171 & A 口腔, B 咽頭, C 食道:P172～P188; 15 「発生のあらし」 e 腸管とその派生 物:P390; ・講義	遠山
23	<b>消化器系Ⅱ</b> 胃・小腸・大腸	【教科書】 8 「消化器系」 D 胃, E 小腸, F 大腸:P188～ P201;P211～215 ・講義	遠山
24	<b>消化器系Ⅲ</b> 肝臓・膵臓	【教科書】 8 「消化器系」 G 肝臓, H 胆嚢, I 膵臓:P201 ～P215 ・講義	遠山

25	<b>泌尿生殖器系総論</b> 泌尿器系の発生と生殖器系の発生	【教科書】 15 「 <b>発生のあらまし</b> 」 3-b 泌尿生殖器系:P386～P387 ・講義	遠山
26	<b>泌尿器系</b> 発生・組織・構造：腎臓・尿管・膀胱・尿道・外陰部	【教科書】 10 「 <b>泌尿器系</b> 」 :P235～P243 ・講義	遠山
27	<b>男性生殖器系</b> 発生・組織・構造：精巣・精管・付属腺	【教科書】 11 「 <b>生殖器系</b> 」 A 男性の生殖器:P245-P251 ・講義	遠山
28	<b>女性生殖器系・人体の発生</b> 発生・組織・構造（卵巣・卵管・子宮・膣） ・受精および胎児の器官形成の概略	【教科書】 11 「 <b>生殖器系</b> 」 B 女性の生殖器・C 腹膜P252-P263; 15 「 <b>発生のあらまし</b> 」 :P377～P394・講義	遠山
29	<b>内分泌系 I</b> 総論・発生・組織・構造の特徴；下垂体・松果体	【教科書】 12 「 <b>内分泌系</b> 」 A 下垂体・B 松果体 P265-P271 ・講義	遠山
30	<b>内分泌系 II</b> 甲状腺・上皮小体・副腎・睪島・その他内分泌細胞	【教科書】 12 「 <b>内分泌系</b> 」 C 甲状腺・D 上皮小体・E 副腎・F 睪島のランゲルハンス島・G その他の内分泌細胞とホルモン P271-P278 ・講義	遠山

## ■ 履修条件

特になし

## ■ 成績評価方法

「レポート」20%および試験（中間、期末）80%

なお、レポートの課題・提出方法は適宜指示する。

## ■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

学務課を通して行う。

## ■ 教科書

- ・藤田恒夫著・藤田信也改訂（2024）『入門人体解剖学 改訂第6版』南江堂

## ■ 参考書・参考資料等

- ・『デジタル ナーシング グラフィカ』メディカ出版  
人体の構造と機能 ① 解剖生理学

## ■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

シラバスに記載の授業内容で指定された教科書の部分を事前に目を通し、疑問点を把握する。1時間程度。その他詳細は授業時に提示する。

## ■ 担当教員からのメッセージ

解剖学は体の「つくりと働き」を理解する科目です。幸い、皆さんは、その実物を各自持っています。例えば、骨・筋・腱・血管などは、体表から触れることが可能な部位があります。また、手首・肘・膝がどのように動くかも実感できます。学習した臓器については、その都度、各自の体でも確認し、解剖学的・医学的用語を使って学習した知識を反芻してみてください。また、新聞、テレビ、ウェブなどで関連する情報に興味をもって意識的に接することも大切です。皆さんは、これまでの小学校以来の教育で、多くの「体に関する知識」を教わっています。ただ、これまでの知識は断片的で体系立っていないため、専門家としては不十分です。本科目を通して、それらの知識をきちんと整理・修正・確認し、体系的に理解し、プロの看護師として活用できる総合力を身につけましょう！ 授業で疑問が生じた時は、その場で質問し、私を助けてください。山登りと同じで、一步一步進めれば必ず山頂に到達できます！

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

講義の後の時間に対応可能。

その他は学務課へお問い合わせください。

■ 担当教員の実務経験の有無

無

■ 担当教員の実務経験

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容